

製品名: IFI-56K ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12376**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	IFIT1
別名	IFIT1; G10P1; IFI56; IFNAI1; ISG56; Interferon-induced protein with tetratricopeptide repeats 1; IFIT-1; Interferon-induced 56 kDa protein; IFI-56K; P56
遺伝子 ID	3434.0
SwissProt ID	P09914
免疫原	抗血清はヒト IFIT1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 41-90

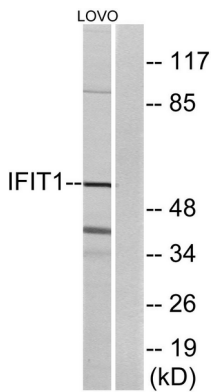
背景

この遺伝子は、テトラトリコペプチドリピートを含むタンパク質をコードしており、これは当初インターフェロン治療によって誘導

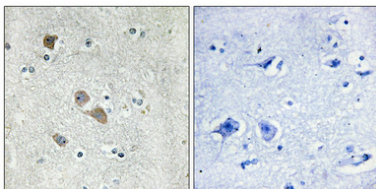
されることが同定されていました。コードされているタンパク質は、ウイルスの複製および翻訳開始を阻害する可能性があります。この遺伝子は、他の5つの密接に関連する遺伝子とともに、10番染色体上のクラスターに位置しています。この遺伝子の擬似遺伝子は13番染色体上に存在します。複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2012年8月],誘導: インターフェロンによる。類似性: IFITファミリーに属する。類似性: 10個のTPRリピートを含む。

研究分野

画像データ



IFIT1抗体を用いたLOVO細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。